

## 平成25年度第1回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

- 1 期日・場所 平成25年9月24日(火) 10:00~11:30  
兵庫県民会館 7階「鶴」  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者  
(委員11名) 平川委員 松本委員 和田委員 小山委員 平松委員  
田名網委員 増田委員 濱田委員 福井委員 東野委員  
入江委員  
(欠席:山口委員 田中委員 寺見委員 三木委員)  
  
(幹事12名) 竹村幹事 清澤幹事 上田幹事 西口幹事  
小南幹事 小畑幹事 横山幹事 中野幹事  
井崎幹事 廣瀬幹事 船田幹事 山内幹事  
(印は代理出席)  
  
(教育委員会) 高井教育長  
  
(事務局) 升川副課長 山添副課長 山根係長 北中主任指導主事
- 3 開会あいさつ 教育委員会事務局 高井教育長
- 4 委員・幹事紹介 司会者(山根係長)呼名による委員紹介  
及び紙面による幹事紹介
- 5 署名委員の指名 署名委員は、平松会長の指名により、次のとおり決定された。  
平川委員 松本委員
- 6 前回議事録の報告  
平成24年度第2回スポーツ推進審議会における報告事項(平成25年度事業概要)及び審議事項(平成25年度スポーツ振興団体に交付する補助金、兵庫県スポーツ推進計画案の策定)について山添副課長が説明し、承認された。
- 7 報告事項  
(1)平成25年度の実業実施概要について  
体育保健課に関する事業概要について、廣瀬体育保健課長が報告した。  
スポーツ振興課に関する事業概要について、船田スポーツ振興課長が報告した。  
障害者支援課に関する事業概要について、上田障害者支援課長が報告した。  
(2)「兵庫県スポーツ推進計画」の状況及び平成25年度の取組みについて、山添副課長が報告した。

## 8 審議事項

### (1)兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について

山添副課長より、本計画の特徴の一つに「地域スポーツとトップスポーツの連携・協働による好循環の創出」を明記している一方で、「障害者スポーツとの連携に取り組むスポーツクラブ21ひょうご」や「スポーツイベント等の開催に取り組むスポーツクラブ21ひょうご」など、連携に関する指標の評価は低い状況にあることの報告があり、さらに本計画内で明記されている「官・民・学・産」の連携・協働に係る主な取組29項目について、今後、より効果的な事業を新しく企画・立案していかなければならない必要性の説明があった。また、船田課長より、今年度の新規事業で「官・民・学・産」の連携・協働に係る「スポーツひょうご推進事業（スポーツ推進フォーラム）」について説明があった。これらの説明を踏まえ、各委員より連携・協働推進の課題やそれを克服するための、具体的な意見をいただいた。

### (2)その他

意見なし

## 9 その他の事項

委員の主な意見及び事務局の説明

### (1)「報告事項(1)平成25年度の事業実施概要について」

幼稚園・小学校教員体育実技指導力向上事業については、今後、非常に大事なものだと思っている。小学校については、体力向上等さまざまな取組がなされているが、幼稚園では始まったばかりである。

幼稚園においては「体育」というよりむしろ「遊び」といった視点が大切で、小学校の体力向上、健康づくりは、突きつめれば幼稚園にまで視点を注ぐべきものでもある。これらのことを意識して、本事業を今後も継続して取り組んでいき、成果をあげて欲しい。

神戸マラソンについて、天候にもよると思うが、第1,2回の大会については、後半の水分補給ができなかったとの声をよく聞いたが、今年は十分に用意していただけるのか。

#### 【事務局説明】

第1回大会においては、はじめてということもあって、量は十分に用意をしていたものの、走者のペースが読み切れず、給水所の場所によっては一部水分が不足する状況があった。第2回大会では、その反省を踏まえ、量と配置場所について適切に分けることができ、不足分はなかったと把握している。今年もさらに同様の形で、充分用意し不足がないよう充分準備していく。

### (2)「報告事項(2)「兵庫県スポーツ推進計画」の状況及び平成25年度の取組について」

子どもの体力の走る指標については、100%を超しているものがあるが、これは身長との関係も大きいのではないか。身長が伸びた分、ストライドが広がったからの理由も考えられる。この関係性については、今後、研究していく余地があると思う。

#### 【事務局説明】

ご指摘の部分については、確かにその要因も考えられるが、身長差を考慮したものでなく、国の基準から考えた結果である。そこで100%を超しているものがあるが、決してこれでいいとの考えではなく、100%以上としているので、今後もさらに高めたいと考えている。

子どもの体力についての指標をつくるにあたっては、確かに体格差についても検討はしたが、ここでは、国の昭和60年頃の記録を絶対値としての比較した値を用いている。今後は、体格差との比較も必要かと思うが、合わせて体力はトータルでみないといけないので、これら各指標のトータルにより、評価をしていくことが必要である。

「敏捷性」の指標も必要かと思う。子どもの生活環境からみた場合、動的な生活環境で育った子どもと静的な生活環境で育った子どもを比較し、動的な子どもの環境に注視することが大切だ。

#### 【事務局説明】

体力運動能力調査については、委員ご指摘の項目も含めて実施し、いろいろと検討しているが、昭和60年当時と比較できるものは、この4指標であるため数値目標に盛り込んでいる。

成人のスポーツ実施率については、スポーツクラブ21ひょうごの活用が不可欠だと思うが、クラブの現状として、基金がなくなった、高齢化が進んだ、小学校の統廃合が進んだなどの背景で、活発なクラブとそうでないクラブの二極化が進んでいる。その中、今後どのようにスポーツクラブ21ひょうごのテコ入れをしようと思っているか。

#### 【事務局説明】

スポーツクラブ21ひょうごについては、委員ご指摘のとおり二極化が進んでいると考えている。本計画でのスポーツ環境を整備するとの意味では、全小学校区に配置しているスポーツクラブ21ひょうごは、本当に寄与していただいている。今後は、全県のスポーツサミットや市町、スポーツ推進員との連携を密にしながら、スポーツクラブ21ひょうごの活性化に向けて取り組んでいきたいと考えている。

- (3) 審議事項 「兵庫県スポーツ推進計画の取組を進めるための方策について」  
障害者スポーツ人口の拡充については、50年の歴史の中で実態調査は一度も行っ

ていない。今後の多様化を考えると指標をどのように扱って行くかが課題である。また、スポーツ推進委員には今までの健常者向きの研修会ではなく、たとえ1時間でもいいので障害者スポーツに関する座学や体験などの研修を盛り込んで欲しい。また、ユニバーサルな施設づくりについてはどうなのか。これにも、障害者スポーツ施設を建設したものの機能しなかったり、安全配慮に不十分な施設があったりする中、これからのより協働・連携を見越した施設づくりの必要性を痛感している。

小中高の体力向上については、一定の成果をあげているのでこのまま継続して欲しい。一方で、この度の体罰問題で行きすぎた指導が一部みられる中、いきいき運動部活動のリーフレットが改訂され、体罰に対する考え方を見直していこうという動きを活かすためにも、中・高の指導研修の内容の充実と参加者を増やすことについて、今後、新しいしかけをしていくことが必要だと思っている。

もう一点、競技力の向上という観点においては、中高生の育成の支援についてはかなりしていただいているが、加えて県内の企業、大学の部に対する研修会の実施や強化合宿等の支援についても考え、国体に向けての競技力向上の観点をもっといただければと思う。

外部指導の活用については、数の問題もさることながら、資質の問題をはじめ種々課題がある。抜本的な改革が必要となってくる。一方で、現場の顧問の指導力を上げることも急務な課題である。最近では顧問になりたがらない者もいる。これらを含めた改善が課題となると感じている。

神戸市の状況は、子どもの体力については、県と同様の状況にあり、走はいいものの、握力やボール投げについては低い。今年度から体力・運動能力調査については悉皆調査になっているため、その結果を分析・検討してみたい。また、中学校の運動部活動については、外部指導者制度により顧問不足をカバーしてきた。近年は、大量採用により若い教員が増え、経験の有無にもかかわらず、運動部の顧問になる人が増えている。部全体の加入率は、文化部も含めて91.2%と比較的高い状況にある。さらに子どもの減少と多様化に対応するため、運動部活動の拠点校方式を導入しており、土日に子どもが拠点校に行き、スポーツを行うなどの取り組みも行っている。

連携・協働については、ずいぶん前から言われていることでもある。しかし、これは大変難しいことで、大学で考えると大学にはメインの仕事がある。その上で、連携をすすめていくとなると、どこがリーダーシップをとるのか、何に貢献するのかが明確であることが重要になってくる。例えばスポーツクラブ21ひょうごとの連携を考えた時、連携のイメージが湧いてこない。そういう意味において、組織としてのリーダーシップがあり、コーディネートができる組織が必要であるとの考え方が大切である。兵庫県の大学は他府県に比べれば、まだ頑張っている方だと思う。

やはり、行きつくところはスポーツクラブ21ひょうごがまず、目に見える（連携・協働に関する）活動することだと思う。

生涯スポーツの担当者であるスポーツ推進委員については、各市町が委嘱し、監督・指揮権は市町に属する。つまり、市町のスポーツに対する取り組み方でずいぶん差がでてくるケースが見られている。このような状況において、せっかく県のスポーツ推進計画を策定したので、これに基づいて市町をしっかりと指導することが必要だと思う。さらに、スポーツクラブ21の現状として資金のないところ、貯めているところがあることも、二極化が進む要因となっている。ここで思い切って、NPO 法人化や統合・連携を図っていくなどの手を打たないと、活発でないクラブは衰退する一方でかつ目に見えたものにならないと考える。

競技力の向上について、国体8位の入賞は達成ができていないので予算が減らされるかも知れない。現にこれまでも減ってきている。先日、ブロック会議があり出席したが、和歌山県がものすごく強化している。京都も滋賀も意識が変わってきている。したがって、よほど腰をすえていかないとブロックから抜け出して国体代表になっていくのは難しくなっている状況にある。8位入賞というお題目は結構だが、もっとより具体的にどうやって取り組んでいくのかを考えるべきである。例えば、各競技団体のトップクラス、会長や理事長等としっかりと強化について、具体的に話し合うべきである。和歌山県では強化にお金をかけてやっていると思う。予算が減っていく中、手弁当でやっていくのにも限度がある。また、指導者の養成についても、一番のポイントになるものだと思う。経済面が全てとは言わないが、現実問題として直視し、勝つための施策を考えていくべきである。

若い指導者が根本的に足りないことが大きな課題といえる。子どもに夢をもたせ、スポーツに取り組み、将来オリンピックをターゲットにして子どもを育てる。そういった長期的なスパンに立った指導者を養成することで、運動する子どもが減って、競技力が下がるといった悪循環を改善することが重要な課題である。地域で育ったアスリートが地元へ戻ってくるためにも、若い指導者の受け皿となる組織の構築が急務であると考えている。これは、競技スポーツだけでなく、地域スポーツにもいえることである。

ドクター派遣については、競技団においてきちんと医務委員会をつくるべきである。それがあから、そこに属するドクターも時間を割いて見に行くのではないか。3年ほど前に全国の競技団が集まった会議で、競技団体として医務委員会をもっているのは、ラグビー競技だけだと聞いた。他は兵庫県においても無いと思う。今後は医務委員会を持たない団体に対して、自分のところで設置するよう指導していくべきだ。また、障害者スポーツについては、兵庫県は充実したバックアップ体制は、充分あると思う。したがって、もっと障害者スポーツを宣伝すべきではないか。例えば、健常者と分けずに一緒にプレーすることがあってもいいと思う。

兵庫県は、企業・大学スポーツが盛んであるが、連携・協働については、何分旗

振り役がないということだ。今後は、スポーツ推進計画に取り組み、推進していく中、是非、旗振り役をつくって欲しい。これについては、例えば兵庫ストークスなどのプロバスケットチームは、連携・協働については協力するといっている。現在、全県下を回って指導し、今年はプロジェクトの立ち上げもすると聞いている。また、各地域にもミニバスケットチームをつくる構想もあるようだ。さらには、神戸製鋼ラグビーでは、選手共々、ニュースポーツをつくって、普及させたいと聞いている。これらのように、いろんな取り組みはあるが、いかんせんそれを結集していく推進役がないということなので、計画を進める上でも考えていかないといけない。また、東京五輪の決定を受け、せっかくの機会なので国体、オリンピックを含めて、小中学生をターゲットにした育成に取り組んで欲しい。前回のロンドン大会では、全選手団の約1割が兵庫県にかかわりのある選手や関係者であったので、東京五輪についても兵庫県から多くの選手を輩出できるようにして欲しい。

また、先程来、話が出ているが、競技スポーツ、スポーツクラブ21ひょうごについても、お金はかかるので、絵に描いたもちにならないようきっちりと支援していくことが大切である。

本日いただいた意見を参考にし、来年度事業計画の企画・立案等への反映をお願いします。

- 10 閉会あいさつ 船田スポーツ振興課長  
来年度事業計画立案に際しての、留意点の説明を含む

- 11 閉 会

署名委員

氏名 \_\_\_\_\_ 印 氏名 \_\_\_\_\_ 印